

王舎城多宝山宝塔落慶供養祝辞

日本山妙法寺 藤井日達

王舎城多宝山上の宝塔湧現は、二千五百有余年の往昔、大覺世尊靈鷲山に在て、八ヶ年法華經を演説し給ひし時、過去久遠劫入滅の、多宝如来の全身舍利の宝塔が、忽然として多宝山上に湧現し、釈尊は此宝塔の中に入て、法華經の神髓たる如来寿量品を説き、南無法蓮華經の五字七字に結んで、末法濁世の衆生救護の為に留め残されました。

末法濁世の今日、南無妙法蓮華經の大音声の天鼓の鳴動する中に、高広嚴飾せる教主釈尊の御仏舍利塔が、忽然として再び多宝山上に湧現し、四衆見る者皆威く歓喜します。

王舎城の宝塔湧現は、平和印度共和国誕生の、金字塔であります。もし先年印度が、非暴力手段を用て独立自由を獲得せなかつたならば、又ネール首相が自ら王舎城復興の誓願

を發されなかつたならば、此山上に此宝塔は湧現することは不可能でありました。

王舎城多宝山上の宝塔湧現は、一千三百年来日本民族が進歩と平和と文化との、国家社会を建設する上に、洪大なる指導と恩恵を施せし仏教の教主、釈迦牟尼世尊に対する、報恩感謝の念を表現したる、日本仏教徒の供養の一端であります。

本日爰に、印度大統領閣下並印度独立運動の大指導者を迎へて、未曾有の盛典を挙げ宝塔落慶供養を営むことが出来まして歓喜に堪へませぬ。

妙法蓮華經如来壽量品に曰く、

「衆我滅度を見て、広く舍利を供養し、咸皆恋慕を懷いて、渴仰の心を生ず衆生既に信伏し、質直にして意柔軟に一心に仏を見奉らんと欲くて、自ら身命を惜まず、時に我及び衆僧、俱に靈鷲山に出づ」。

我は是れ世尊の使也、衆に処するに畏る処無し。

我当に能く法を説くべし、願くば仏安穩に住し給へ。

平和推進世界仏教徒会議の挨拶

昭和四十四年十月廿五日

日本山妙法寺 藤井日達

本日御仏舍利塔落慶供養のついでに平和推進世界仏教徒会議を開催する次第であります。

教主釈尊一代五十年の御化導の中に於て最後八ヶ年間此所王舎城靈鷲山に於て万二千の大阿羅漢、八万の菩薩衆等の為に一切衆生皆成仏道の甘露門を開いて説かれたものが妙法蓮華經であります。其外の諸大乘經は或は一日一夜、或は三七日等の御説法であります。終始一部の御經にして八ヶ年の歳月に亘つたと云ふ事がいかに釈尊一代の中に於て肝要なお經であるかを推するに余りあります。